

# 海洋教育パイオニアスクールプログラム「海とつながる 2019」

## 4年生 塩浜ふるさと防災科「塩浜シーワールド」

船上学習から興味を持ち、海の生き物までつなげることができました。塩浜地区にはたくさんのカニやトビハゼなどの生き物がいることを知り、みんなに知らせるために、水族館を作ることを計画し実践しました。12月19日に「塩浜シーワールド」水族館がオープンしました。

4年生は、「塩浜ふるさと防災科」の学習で東京湾の船上学習や鳥獣保護区見学を行い、塩浜地区にいる貴重な生き物や海の生物を紹介するために水族館を活動室に作り、業間休みや昼休みに公開しました。

マハゼ、オサガニ、3種類のメダカの実物展示や、魚の名前のカルタ、様々な魚の写真を使った魚釣り、クイズなど、4年生が考えた水族館を、1～3年生の児童が見に行きました。それぞれのコーナーで、4年生が丁寧に説明し、動画や虫眼鏡を準備して、よく生き物がみられるような工夫もしていました。生き物に関する本の展示や、海水を作るための道具なども展示されており、4年生の児童がどのようにこの水族館を作っていったかが分かる軌跡もありました。

展示前や飼育中に死んでしまった生き物がたくさん出てしまい、その原因を考えるとともに、鳥獣保護区の方を講師に招き、解決を図るなど、さらに学習を深めていった。



塩浜シーワールドオープン

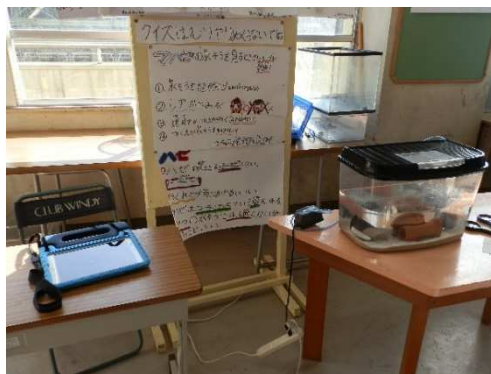


塩浜水族館へ ようこ



担当ブースを説明します

カニの動き動画コーナー



## ■【生徒の感想】 塩浜シーワールド（水族館）の活動を振り返って

○餌の量を調節するのが大変だった。みんなが協力して心が一つになっていると思い、うれしかったです。ヤマトオサガニが死んでしまった時はとても悲しかったです。足がとれて弱っちゃったけど、ヤマトオサガニは一生懸命生きてくれてうれしかったです。ヤマトオサガニに興味を持ってくれた人がいてよかったです。

○餌と人工の海水量の調節や管理が大変でした。普通を維持することを心掛けた。頑張ったので、塩浜シーワールド（水族館）が成功してよかったです。

○水槽を洗うのが大変だった。餌やりも簡単だと思っていたけど、やりすぎもだめだし、どのくらいあげたらいいのか分からなくて難しかった。生き物にとって、ストレスがないようにするのが難しかった。水族館を開いて、みんなに見てもらおうのがうれしかった。

○動画を撮影する時は、他のグループもいるので撮るのが大変だった。魚とはしゃべれないので、「何がほしい」など分からないので、世話が大変でした。

マハゼの情報がなかなかなかった。水族館を開いた時に、1，2，3年生がたくさん見に来てくれたのがうれしかった。



飼育用具の展示



人工海水作り



## ■【生徒の分析】 お世話をしたのに、どうして生き物がたくさん死んでしまったのだろうか？

### 鳥獣保護区と何が違うのだろうか？

- 水温、隠れが、広さ＝自由に住める環境の違い
- 海水の濃さ、塩分、汚れ
- 餌の量や餌をやるタイミング
- 地面の土・砂・泥で本当にコーラルサンドであっているのか
- 砂の種類
- 自分で住む場所や餌を決めている
- ストレスが少ない
- 自然が少ない
- 鳥獣保護区の水は人工的ではなく、自然に流れてきた水だから、生き物が元気。
- 活動室の温度に問題があるのかもしれない

